

名城大学 環境報告書 2022





立学 の 精 神

穏健中正で実行力に富み、 国家、社会の信頼に値する人材を育成する。

立学の精神、その中に含まれる、「穏」「健」「中」「正」、
この4文字の意味するところを身につけることができれば、
広く社会の人々から信頼をうけることができるのではないか。
そして、この4文字の意味を体して、力強く、実践を積み重ねるとき、
きっと個人の生涯は大きくその門を開くだろう。

穏 健 中 正

穏 平和であたたかく
穏やかであること。

健 秩序と調和と
確実さをもって、
支障なく、
力強く前進すること。

中 謙虚なものごとの
核心をつかみ、
包容力ある立場に
あること。

正 ものごとに、折り目、
はじめをつけ、
順逆をわきまえて
筋を通すこと。

環 境 理 念 ・ 環 境 方 針

環境理念

名城大学及び名城大学附属高等学校は、環境基本法を始めとする環境法令を遵守し、
社会から要請される「持続的に発展可能な社会の形成」に応えられる人材の育成と研究に努めます。

環境方針

1. 地球環境の保全と維持向上に係る教育研究活動を充実し、環境を視野に入れた人材を育成します。
2. 環境に係る公開講座などの開催や研究成果の公開を推進し、環境保全に貢献します。
3. 省資源、省エネルギー、グリーン購入の推進及び廃棄物の減量と適正管理に努め、環境負荷の低減に取り組みます。
4. 教育研究をはじめ、総ての活動において、環境関連法規制、協定等を遵守し、汚染の予防に努めます。
5. 環境方針を達成するため、名城大学が独自に策定した環境マネジメントシステム（Meijo-EMS）を構築・運用します。
6. 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムを含む環境保全活動の継続的な改善を図ります。
7. 環境方針はホームページで公開します。

名城大学 学長 小原 章裕



令和3年4月1日時点

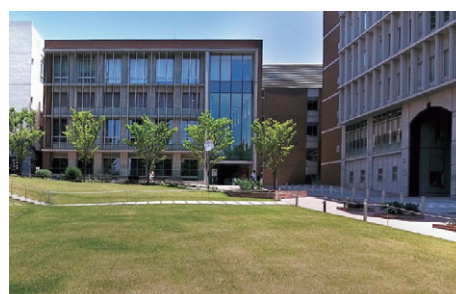
天白キャンパス

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目501番地
TEL 052-832-1151 (代表)
地下鉄鶴舞線「塩釜口」駅1番出口徒歩約4分
校地現有面積: 129,367㎡ 校舎等現有面積: 179,772㎡
学生数: 10,943人 教職員数: 612人



八事キャンパス

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150番地
TEL 052-832-1151 (代表)
地下鉄鶴舞線・名城線「八事」駅6番出口徒歩約6分
校地現有面積: 17,553㎡ 校舎等現有面積: 32,825㎡
学生数: 1,665人 教職員数: 84人



ナゴヤドーム前キャンパス

〒461-8534 名古屋市東区矢田南四丁目102番9
TEL 052-832-1151 (代表)
JR中央線・名鉄瀬戸線「大曽根」駅徒歩約10分、
地下鉄名城線「ナゴヤドーム前矢田」駅2番出口徒歩約3分
校地現有面積: 17,937㎡ 校舎等現有面積: 32,559㎡
学生数: 2,399人 教職員数: 92人



春日井キャンパス (附属農場)

〒486-0804
春日井市鷹来町菱ヶ池4431-2
TEL 0568-81-2169
校地現有面積: 136,860㎡
校舎等現有面積: 7,042㎡



中村キャンパス (附属高等学校)

〒453-0031
名古屋市中村区新富町一丁目3番16号
TEL 052-481-7436 (代表)
名鉄犬山線「東枇杷島」駅徒歩約5分、
JR東海道線「枇杷島」駅徒歩約20分
校地現有面積: 64,335㎡
校舎等現有面積: 31,690㎡
学生数: 1,946人
教職員数: 105人

グラウンド等 (第1・2グラウンド、日進総合グラウンド)

〒468-8502
日進市藤島町長塚75番地
TEL 0561-73-0810
※第1・2グラウンドは天白キャンパスにあります。
校地現有面積: 152,553㎡
校舎等現有面積: 5,827㎡





環境マネジメントシステム組織図

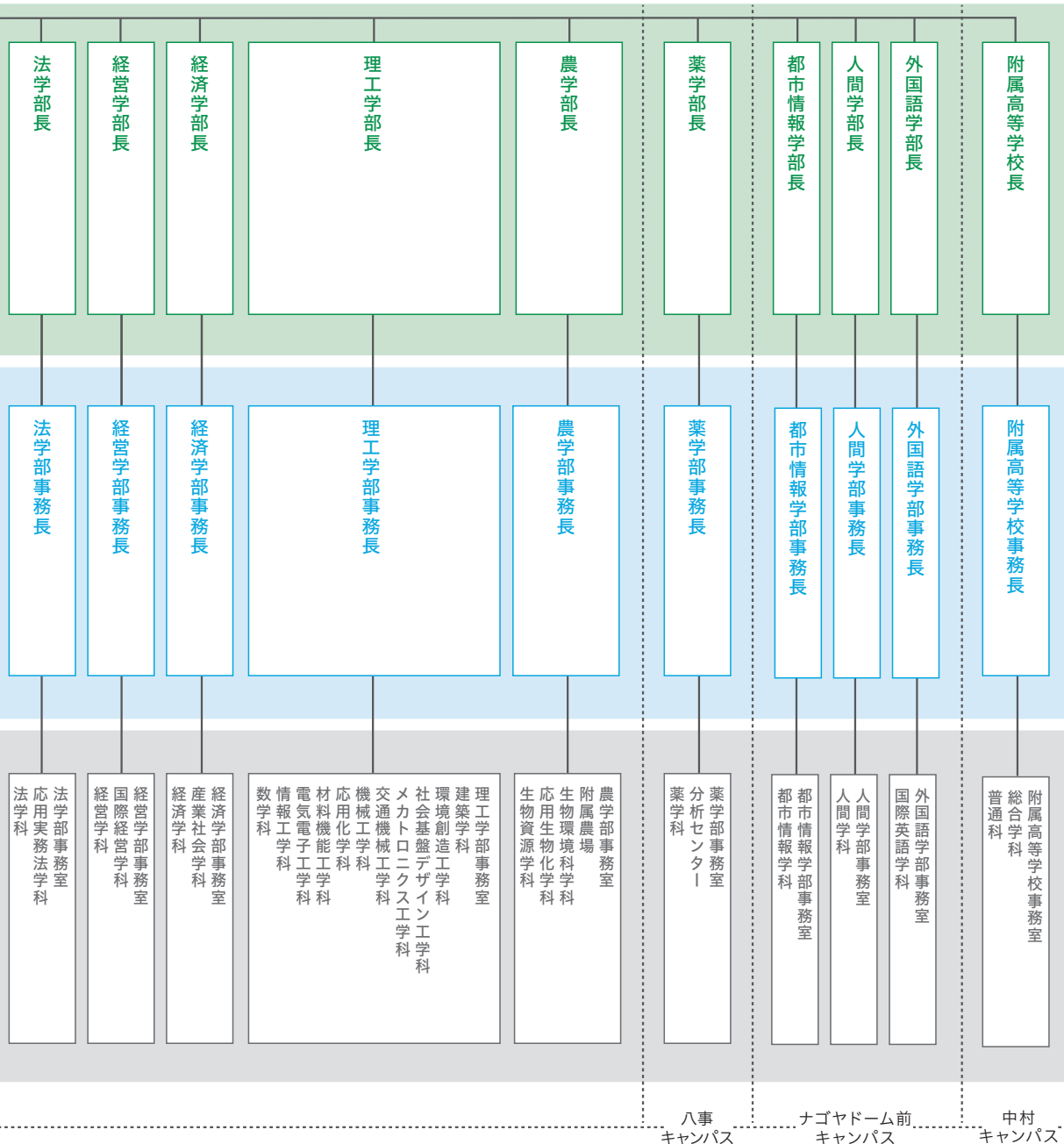


環境保全委員長

副学長

環境保全委員会

学生ワーキンググループ

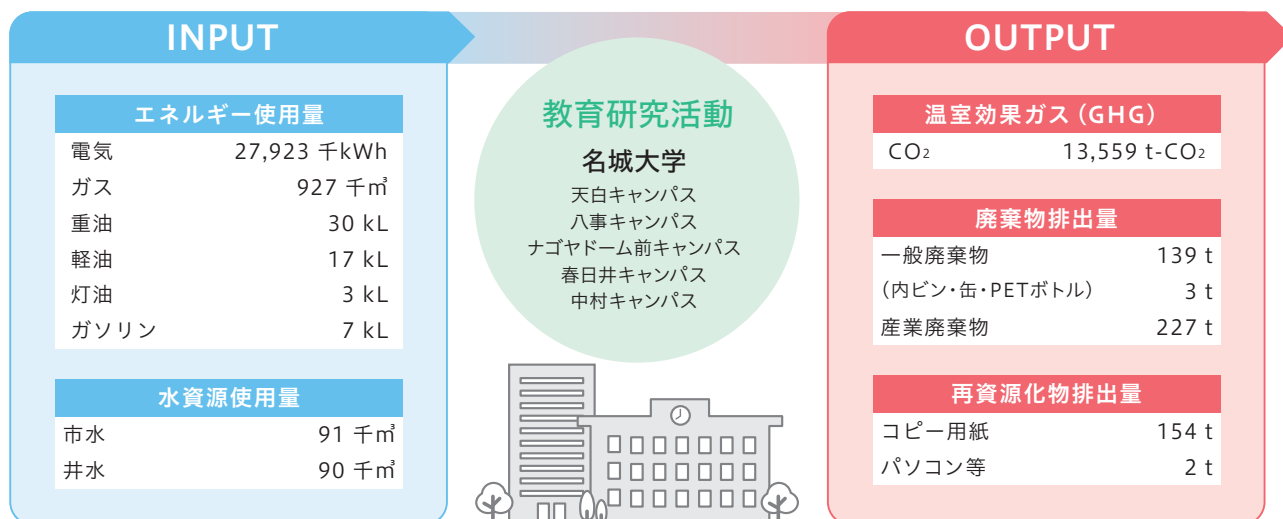




環境への取り組み状況

マテリアルバランス

本学の各キャンパスで使用・消費されるエネルギー、資源、及び廃棄物などについてデータを集計し、環境配慮活動の基礎データとして、環境負荷の低減に努めています。令和3年度の教育研究活動に伴って生じた環境負荷の状況は次の通りです。



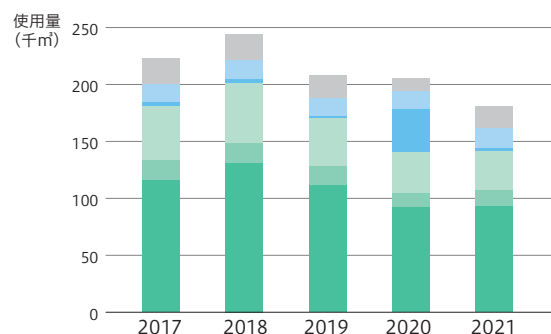
省資源の推進

水資源の管理

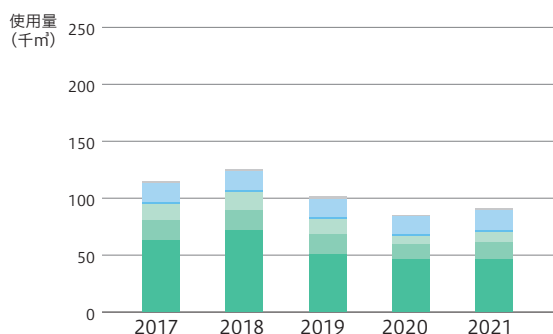
水道の蛇口をひねれば、透明な水が出てくるのが当たり前で、その価値は薄くなっています。また、浄水器を通した水やミネラルウォーターなどを飲む人が増えており、水道水をそのまま飲んでいる人の割合は40%以下となっています。

本学では積極的な雨水・井水の利用、漏水の随時監視、節水コマの導入、学生・教職員への呼びかけにより、市水の利用を削減するよう努めています。水資源の使用量の推移は次の通りです。

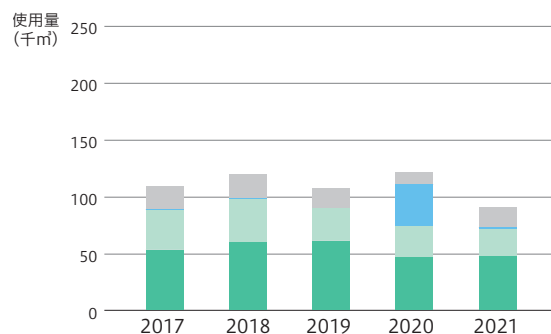
■ 水資源（市水+井水）使用量



■ 水資源（市水）使用量



■ 水資源（井水）使用量



■ 天白キャンパス ■ 八事キャンパス ■ ナゴヤドーム前キャンパス ■ 春日井キャンパス ■ 中村キャンパス ■ その他*

※その他は、可児キャンパス（旧）、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

省エネルギーの推進

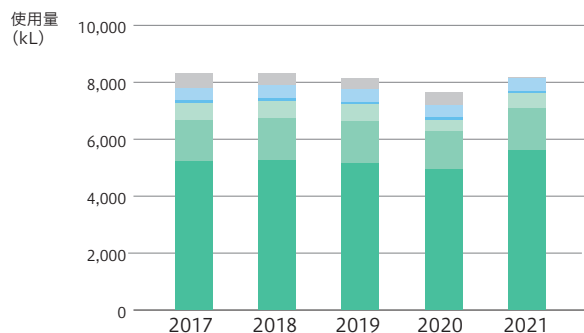
エネルギー使用量

エネルギーの使用量は、4つのキャンパス、総合グラウンド、附属高等学校及び関連施設を合わせて、原油換算値約8,000kLと横這いで推移しています。本学におけるエネルギー使用の管理は、教室・研究室・実験室といった各室における個別管理が難しい状況です。各室における個別管理の運用を検討することや、省エネ設備の導入や、教職員・学生の意識向上を図ることで省エネ活動を推進していきます。

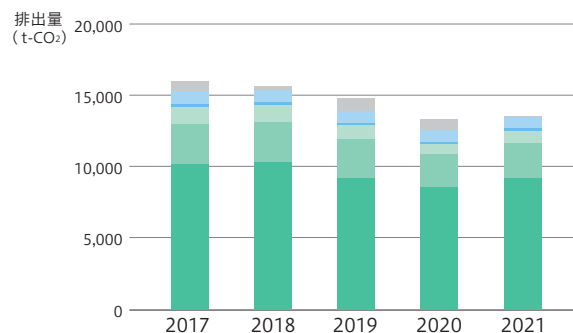
原油換算値
約8,000kL



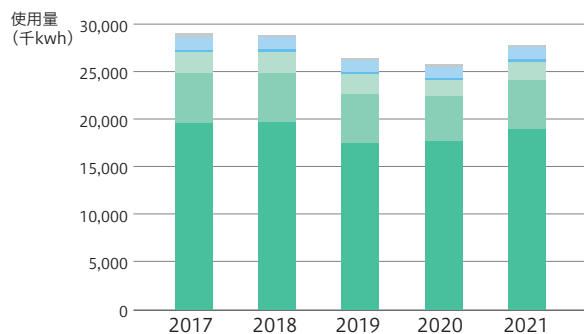
総エネルギー使用量（原油換算）



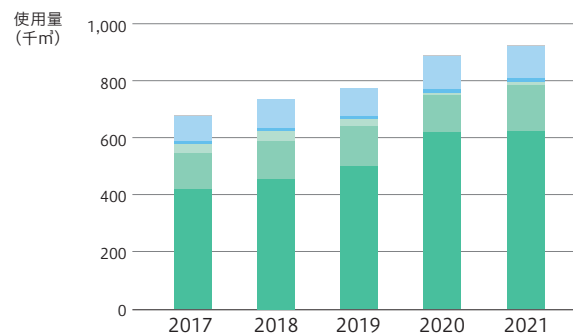
CO₂排出量



電気使用量

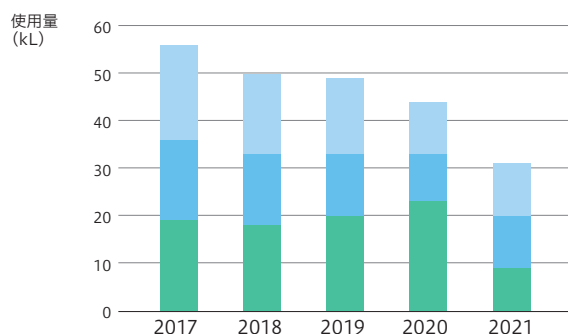


ガス使用量

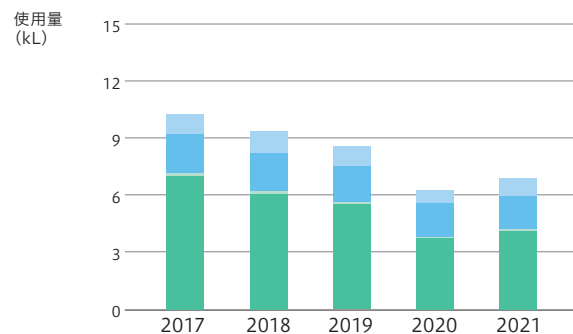


※2021年度はその他に東京オフィスが含まれています。

重油使用量



ガソリン使用量



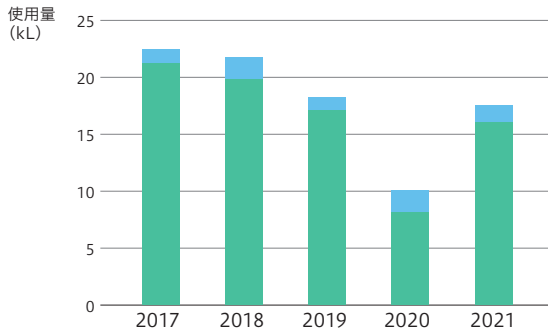
■ 天白キャンパス ■ 八事キャンパス ■ ナゴヤドーム前キャンパス ■ 春日井キャンパス ■ 中村キャンパス ■ その他*

※その他は、可児キャンパス（旧）、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

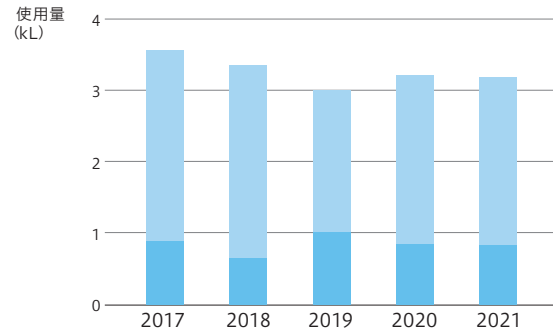


環境への取り組み状況

■ 軽油使用量



■ 灯油使用量



■ 天白キャンパス ■ 春日井キャンパス ■ 中村キャンパス

廃棄物の適正管理

■ 廃棄物の取り組み

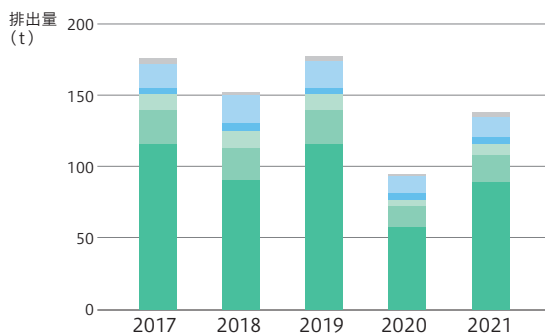
一般廃棄物及び産業廃棄物の排出量は、例年150t程度で推移しています。6種類の回収ボックスとボトルキャップ回収箱を設け、分別回収及びリサイクルに努めています。

産業廃棄物については、平成29年度、可児キャンパスの移転に伴い、約300t増加しました。有用な備品等は譲渡し、できる限り分別廃棄しました。これまで産業廃棄物として処分していたOA機器・計測機器等を平成29年度から分別回収を強化し、有価物として処分することで産業廃棄物の減量を図っています。

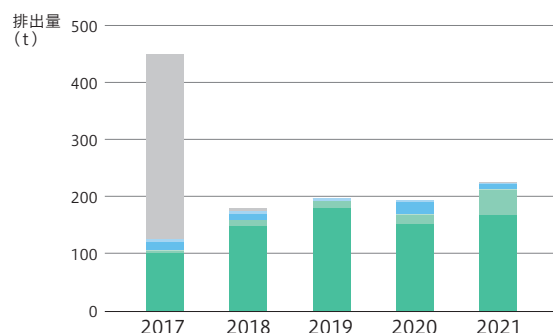
大学祭においても、大学祭実行委員による適切な分別回収を行っています。



■ 一般廃棄物排出量



■ 産業廃棄物排出量



■ 天白キャンパス ■ 八事キャンパス ■ ナゴヤドーム前キャンパス ■ 春日井キャンパス ■ 中村キャンパス ■ その他*

※その他は、可児キャンパス（旧）、日進総合グラウンド、ヨット艇庫の合計です。

令和3年度 環境目標・実施計画

環境側面	対象	環境目標	実施計画
エネルギーの使用	電力	前年度比 1%以上削減する	人感センサーや高効率照明の利用
			高効率空調機の利用
			空調のデマンド管理
			省エネルギー対策実施の啓発活動
	ガス	前年度比 1%以上削減する	高効率空調機の利用
			空調機のフィルター清掃の実施
資源の使用	水	前年度比 1%以上削減する	漏水管理の徹底
			省資源の対策実施の啓発活動
	紙	前年度比 1%以上削減する	両面印刷や裏面利用を推進
			電子媒体を利用しペーパーレス化の推進
廃棄物の排出	可燃・不燃	前年度比 1%以上削減する	リサイクルを推進 リユースを推進
	紙類		
	ビン・缶		
	ペットボトル		
	有害物等		
環境汚染	PCB廃棄物	高濃度PCB廃棄物を 2023年3月までに処理する	PCB廃棄物の適正な管理
			PCB廃棄物の選別
	排水	排水基準値以下を維持する	pHモニタによる監視
			水質検査を実施
	実験廃液等	排水・大気への放出を抑制する	実験廃液等を回収し適正処理する
グリーン購入	全構成員	グリーン購入を推進する	グリーン購入を推進する
環境意識の向上	学生	環境意識を向上させる	環境関連科目を設置する
	全構成員	環境意識を向上させる	環境講座を開催する
	全構成員	環境に関する状況を周知する	環境報告書を発行し周知する
学内の環境美化 ・ 安全衛生の推進	清掃活動	清掃活動を実施する	学生有志及び職員による清掃活動を実施
	放置自転車	放置自転車を抑制する	自転車の整理整頓を定期的を実施
	禁煙	学内全面禁煙を徹底する	学内全面禁煙を周知徹底
	安全衛生	学内の危険箇所を改善する	安全パトロールの実施



環境への取り組み状況

環境保全・環境教育

本学では、下記の環境関連の科目を設定し、将来を担う学生のために環境教育を行っています。
令和3年度に開講された各学部の科目は、次の通りです。

■ 環境保全・環境教育に関する科目

理工学部	●技術者倫理 ●化学Ⅱ ●安全工学 ●環境材料 ●先端化学 ●新技術概論 ●エネルギー工学 ●自動車工学Ⅰ ●地圏環境工学 ●水域環境工学 ●環境創造工学概論Ⅰ・Ⅱ	●基礎生態学 ●エネルギー環境論 ●環境倫理 ●環境法 ●環境生態工学 ●環境アセスメント ●エネルギー管理工学 ●ゼミナール ●自然環境再生論 ●環境気象学 ●環境文化論	●化学工学 ●環境共生都市論 ●環境リモートセンシング ●環境計測学 ●有機材料工学 ●測量学 ●都市環境設計 ●快適性創造学Ⅱ ●測量学実習 ●地域環境調査実習Ⅰ・Ⅱ ●材料リサイクル	●地学Ⅰ ●環境保全学 ●環境分析学 ●環境創造学実験Ⅰ・Ⅱ ●建築設備概論 ●建築デザインⅠ・Ⅱ ●都市環境デザイン ●建築設備工学Ⅱ
農学部	●生命・食料・環境 ●生物資源学概説 ●園芸学 ●食用作物学Ⅰ・Ⅱ ●基礎昆虫学 ●応用昆虫学 ●生物資源学実験 ●遺伝育種学実験 ●植物病理学実験	●昆虫学実験 ●動物分類・形態学 ●資源作物学 ●熱帯農業論 ●農業環境微生物学 ●応用生物化学概説 ●食品安全・衛生学 ●食品・環境関連法規 ●公衆衛生学	●生物制御化学 ●生物環境科学概説 ●環境化学基礎 ●生態学 ●保全植物学 ●環境動物学 ●緑地環境学 ●物質循環論 ●環境分析化学	●水圏環境化学 ●環境微生物学 ●動物環境生理学 ●野生動物管理論 ●環境アセス論 ●植物機能科学 ●植物環境適応論 ●生物環境科学特別講義
薬学部	●衛生化学Ⅰ・Ⅱ ●感染予防学 ●公衆衛生学	●環境科学 ●人間と環境		
法学部	●環境法			
経営学部	●環境マネジメント研究 ●環境会計研究			
経済学部	●環境経済論 ●環境経営論 ●環境ビジネス論			
人間学部		●環境人間学 ●環境社会学		
外国語学部		●人間と自然 ●地球と宇宙		
都市情報学部		●都市の環境 ●環境の政策 ●人間と環境		

本学の環境保全・環境教育に関する主な研究テーマは、下表の通りです。

■ 環境保全・環境教育に関する主な研究テーマ

学部等	研究テーマ	ホームページURL
理工学部	生物の特殊機能を利用する 高度水処理・循環利用技術の開発	http://www1.meijo-u.ac.jp/~katagiri/index.html http://env.meijo-u.ac.jp/
	超高度脱水技術による汚泥の固形燃料化	
	衛星による降水観測に関する研究	http://env.meijo-u.ac.jp https://www.rain-clim.com
	草食性陸ガニ由来バイオマス分解酵素の解析	—
	バイオマス分解細菌の解析	
農学部	農村景観や生態系サービスの 保全・管理に向けた合意形成過程の解明	http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo07/
	豊田産桑葉の特性解析と有効活用法の開拓	http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo14/
	バイオロギングやリモートセンシングによる 生物生息環境把握	http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo21/index.html
薬学部	水環境で異常発生するラン藻類の分類・同定や 毒性判別を迅速に行うための解析法	http://www-yaku.meijo-u.ac.jp/kenkyu/environmenta/
経営学部	環境経営におけるパラドックス	—
経済学部	19世紀から20世紀前半の米国における 水力統制政策	—
	米国のエネルギー・環境政策：2010-2020年	
	原子力リスク分析に基づいた東アジアの原発安全 協働体制構築(科研基盤研究(B)の研究代表者として)	https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H03678/ http://www.reeps.org/
	日中韓のカーボンニュートラルに向けた 脱炭素技術革新と共同炭素市場構築： E3MEモデルを利用した分析	http://www.profile-ac.jp/lee/
	中国企業の国際展開と気候変動	https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-19K12459/
	日本の2050年カーボンニュートラルの実現が エネルギー構成及びマクロ経済へ与える影響分析 -E3ME マクロ計量経済モデルを用いた分析-	https://www.econ.kyoto-u.ac.jp/renewable_energy/stage2/contents/dp032.html



環境への取り組み状況

学生活動

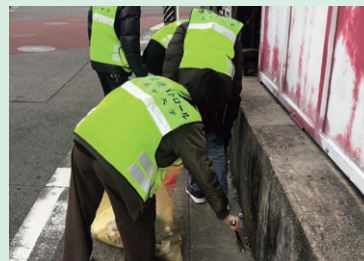
打ち水大作戦

天白キャンパス共通講義棟南館の東側で、環境学生ワーキンググループによる「打ち水大作戦in名城」が開催されました。この活動は地球温暖化対策の一環として平成23年から毎年実施されています。使用する水は雨水と地下水で合計2トンほどです。残念ながら令和3年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できませんでした。



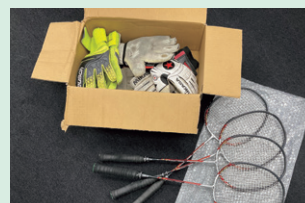
クリーンアップ大作戦

ボランティア協議会は定期的に地域の清掃活動を実施しています。



劣化したスポーツ用品などの 発展途上国への寄贈による社会貢献

授業等で使用するラケットやボール等のスポーツ用品が劣化した場合、新品に買い替えています。廃棄されるスポーツ用品は修理すれば十分に使用できるため、学生らで使用する状態に修理したうえで、JICA「世界の笑顔のために」プロジェクトを通して発展途上国に送付し、国際協力に貢献しています。今までに送付したものはゴールキーパーグローブ、バドミントンラケット・シャトル、バスケットボール、バレーボール等があります。



アップサイクル「トップリーフ」

経営学部の有志が集まり「トップリーフ」を結成しました。廃棄されてしまうもの、捨てられてしまうものを回収し、回収品でプロダクトを製作して新たな価値を生み出すアップサイクルに取り組んでいます。製作したプロ



ダクトは、マルシェや大学祭などで販売しています。プロダクトの背景にあるストーリーを伝えることでアップサイクルを広め、環境問題への関心を持つ人や、SDGsの12番目の目標である「つくる責任・つかう責任」について考える人を増やしていきたいという思いで活動しています。

地球にやさしいをあたりまえに「Clean Green」

学生による環境団体「Clean Green」は、環境に配慮することが豊かな生活に繋がるということを実践するべく活動しています。



服をリペアしながら全国を回るという活動として、東海地方では唯一、名城大学で服の交換会を実施しました。そ

の他にも「ヨガ×エコな歯磨き粉作りイベント」の開催や、家庭菜園キットとコンポストの販売等を実施しました。小さなことでも、既存の枠にとらわれず、自分たちでゼロからイチを作ることに価値があると考え活動しています。





環境への取り組み状況

法令遵守

環境関連法令ならびに県及び市条例等を遵守するに当たり、本学に関連する法の要求事項を適宜確認し、環境負荷の低減に努めています。本学では、下記の環境関連法令等を遵守しています。

環境一般

- 環境基本法
- 環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
- 環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律

地球環境

- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- エネルギーの使用の合理化等に関する法律
- 建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律
- フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- 特定物質等の規制等によるオゾン層の保護に関する法律

廃棄物・リサイクル

- 循環型社会形成推進基本法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 資源の有効な利用の促進に関する法律
- 特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律（バーゼル法）
- 特定家庭用機器再商品化法
- 使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

公害防止・安全衛生

- 大気汚染防止法 ● 騒音規制法 ● 振動規制法 ● 悪臭防止法
- 自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法（自動車 NOx・PM 法）

- 水質汚濁防止法 ● 下水道法 ● 浄化槽法 ● 土壤汚染対策法 ● 工業用水法 ● 水道法

- 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
- 毒物及び劇物取締法
- ダイオキシン類対策特別措置法
- 化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 消防法
- 放射性物質汚染対処法
- 農薬取締法
- 高圧ガス保安法
- ビル管理法
- 作業環境測定法

- 労働安全衛生法 [特定化学物質障害予防規則 事務所衛生基準規則 化学物質管理促進法(SDS)]
[有機溶剤中毒予防規則 ボイラー及び圧力容器安全規則]
- 公害健康被害補償法

条例等

- 愛知県条例（環境基本条例、廃棄物の適正な処理の促進に関する条例など）
- 名古屋市・春日井市・日進市条例（廃棄物の減量及び適正処理に関する条例など）
- 水循環基本法、麻薬及び向精神薬取締法



「環境報告ガイドライン(2012年版)」との対照表

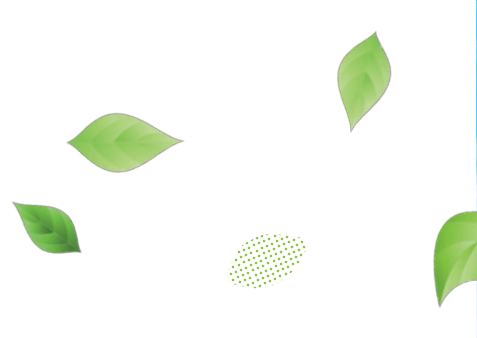
本報告書は、環境省発行の「環境報告ガイドライン(2012年版)」に基づき作成しています。ガイドライン項目と記載ページの一覧を下表に示します。

記載する情報・指標	記載ページ
基本的事項	
1.報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	裏表紙
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	－
(3) 報告方針	－
(4) 公表媒体の方針等	裏表紙
2.経営責任者の緒言	
3.環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	1
(2) KPIの時系列一覧	－
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	－
4.マテリアルバランス	
環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1.環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	1
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	－
2.組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	3-4
(2) 環境リスクマネジメント体制	－
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	13
3.ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	－
(2) 環境に関する社会貢献活動等	11-12
4.バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	－
(2) グリーン購入・調達	－
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	9
(4) 環境関連の新技术・研究開発	10
(5) 環境に配慮した輸送	－
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	－
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	7

記載する情報・指標	記載ページ
事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1.資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	5-6
(2) 総物質投入量及びその低減対策	5
(3) 水資源投入量及びその低減対策	5
2.資源等の循環的利用の状況	
3.生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	－
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	5-6
(3) 総排水量及びその低減対策	－
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	－
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	－
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	7
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	－
4.生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	
環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1.環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	－
(2) 社会における経済的側面の状況	－
2.環境配慮経営の社会的側面に関する状況	
その他の記載事項等	
1.後発事象等	
(1) 後発事象	－
(2) 臨時的事象	－
2.環境情報の第三者審査等	



名城大学



学校法人 名城大学

〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口一丁目 501 番地

TEL : 052-832-1151 (代表)

URL : <https://www.meijo-u.ac.jp>

E-mail : ookankyo@ccmails.meijo-u.ac.jp

報告対象期間：令和3年4月～令和4年3月

(※一部対象期間外の活動を含む。)

報告対象組織：名城大学全キャンパス

発行年月：令和4年12月